



TITLE:

京都大学の学内ファンド：学際・国際・人際融合事業「知の越境」融合チーム研究プログラム「SPIRITS」の成果とこれから

AUTHOR(S):

岡崎, 麻紀子; 天野, 絵里子; 森脇, 一匡

CITATION:

岡崎, 麻紀子 ...[et al]. 京都大学の学内ファンド：学際・国際・人際融合事業「知の越境」融合チーム研究プログラム「SPIRITS」の成果とこれから. 2019: P2-2.

ISSUE DATE:

2019-09-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/244470>

RIGHT:

京都大学の学内ファンド：学際・国際・人際融合事業「知の越境」融合チーム研究プログラム「SPIRITS」の成果とこれから

岡崎麻紀子・天野絵里子・森脇一匡（京都大学 学術研究支援室）

Supporting Program for InterRaction-Based Initiative Team Studies

SPIRITSとは

国際化の推進、未踏領域・未科学への挑戦、イノベーションの創出を加速させるためにURAが設計・運営している、チーム研究を支援する学内ファンド。URAが伴走し、申請時のチーム形成からプロジェクト発展のための外部資金獲得まで、きめ細かなフォローをするのが特徴。

支援経費：経費A（研究大学強化促進補助金）と経費B（自主財源）を併せて提供することで、より研究者のニーズに柔軟に対応できるよう設計
支援期間：2年間

SPIRITSが支援する3つのタイプ

国際型	海外の研究組織・研究者との新たな国際共同研究チームの形成支援
学際型	未踏領域の開拓に挑戦する異分野融合研究チームの形成支援
産官学共創型	企業や自治体とともに社会価値創造を目指す研究チームの形成支援

2019年度より指定国立大学法人としての取り組み「人文知の未来 人社重点領域」を設定し、研究プロジェクトを通常枠とは別に募集・支援

SPIRITSのこれから

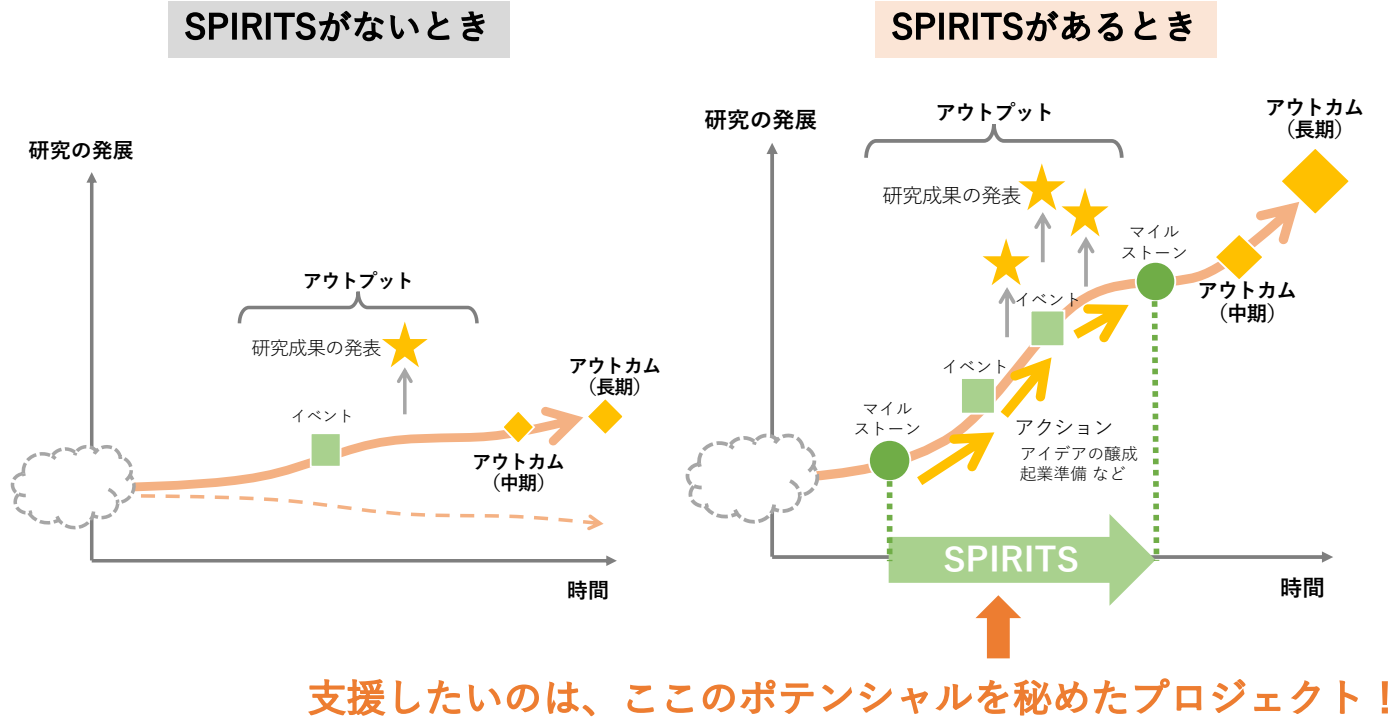
SPIRITSプログラムは7年目となり、支援プロジェクト数も130件を超えた。今後もプログラムを継続・発展させていくためには、各ステークホルダーに、SPIRITSプログラムの評価をすることで有効性や価値を示し、理解を得ることが必要。そのために何をすべきか？

取り組み1：プログラムの目的・共通イメージの再確認とその共有

・SPIRITSプログラム全体と、各型の目的や期待するアウトプット・アウトカムを**ロジックモデル***を使って整理し、毎年振り返ることで課題の洗い出しや次年度公募に向けて改善案を整理

・SPIRITSプログラムの共通イメージを確認し、**SPIRITSモデル**を示すことで可視化

①	評価項目
全体	プロジェクト共通 革新的・創造的 研究の創出
学際型	1. 異分野・学際的な 研究の創出 2. 異分野・学際的な 研究の発展 3. 異分野・学際的な 研究の成果の発表 4. 異分野・学際的な 研究の成果の活用 5. 異分野・学際的な 研究の成果の普及
国際型	1. 国際的な 研究の創出 2. 国際的な 研究の発展 3. 国際的な 研究の成果の発表 4. 国際的な 研究の成果の活用 5. 国際的な 研究の成果の普及
産官学共創型	1. 産官学共創的な 研究の創出 2. 産官学共創的な 研究の発展 3. 産官学共創的な 研究の成果の発表 4. 産官学共創的な 研究の成果の活用 5. 産官学共創的な 研究の成果の普及



取り組み2：プログラムの成果を発信

・各プロジェクトは終了後、成果報告会にて報告
・ウェブや冊子でも成果を積極的に発信
(<http://research.kyoto-u.ac.jp/service/topic/spirits/>)



これからの課題

- ・SPIRITSらしいプロジェクト（＝本当に取りたいプロジェクト）を採択できているか？
 - 論文がたくさん出ている、大型外部資金を獲得したプロジェクトは一見SPIRITSとしての成果が出ているように見えるが、それが本当にSPIRITSが支援すべき（SPIRITSらしい）プロジェクトなのだろうか？
 - SPIRITSらしいプロジェクトかどうか、客観的に評価するにはどうしたら良いか？
- ・SPIRITSプログラムをより理解してもらうにはどうしたらよいか？
- ・プログラムとして目的が達成されているかを、どうやって評価するか？
 - 各プロジェクトの成果（シンポジウムやワークショップの開催件数や外部資金獲得状況など）をまとめるだけでは不十分では？
 - プログラムそのものの評価はどうしたら良い？

SPIRITSの成果

	平成28年度採択プロジェクトの成果	平成29年度採択プロジェクトの成果
	学際型 4 件 国際型 12 件	学際型 4 件 国際型 13 件
特筆すべき成果	<ul style="list-style-type: none">国内で開催してきた異分野交流会を、国際的活動へと発展。広がったネットワークを軸に新たな研究概念の創出。ガーナ大学とMOU締結。JSPS二国間交流事業や外部資金を積極的に獲得し、新たなPJへと発展。学内メンバーがメインであった学際研究プロジェクトが、学外研究者にもネットワークを拡大。科研費挑戦的研究「萌芽」を獲得。	<ul style="list-style-type: none">異分野連携チームをコアに、共同研究や新しい学術領域へ挑戦。結果としてNature投稿論文が高インパクト論文として評価を得た。プロジェクトの発展的研究でCRESTを獲得。研究成果のプレスリリースやメディアを使った発信活動を積極的にを行い、研究代表者やプロジェクトの認知度が向上。市民参加型プロジェクトとして好成果を挙げた。
革新的・創造的研究の創出・発展	<ul style="list-style-type: none">シンポ、ワークショップ、研究会開催：国際28回、国内37回学際・国際研究ネットワーク形成・拡大：17件、新たな学際・国際共同研究の開始：11件、産学連携開始：1件、MOU締結：1件、受賞：9件競争的外部資金申請／獲得：34件／29件	<ul style="list-style-type: none">シンポ、ワークショップ、研究会開催：国際24回、国内22回学際・国際研究ネットワーク形成・拡大：25件、新たな学際・国際共同研究の開始：37件、産学連携開始：3件、受賞：10件競争的外部資金申請／獲得：31件／21件
PM型研究リーダーの輩出	<ul style="list-style-type: none">1,000万円以上の競争的外部資金の研究代表：8人（8件）多くのPJで若手をメンバーに加えてリーダー育成（助教、ポスドク等の若手研究者のべ19名、大学院生等の学生のべ38名がPJに参画）	<ul style="list-style-type: none">1,000万円以上の競争的外部資金の研究代表：9人（12件）多くのPJで若手をメンバーに加えてリーダー育成（助教、ポスドク等の若手研究者のべ37名、大学院生等の学生のべ26名がPJに参画）
研究推進力をもったURAの育成	<ul style="list-style-type: none">全プロジェクトに伴走型支援を担当するURAを設置伴走型支援を実施したURA数：のべ27名	<ul style="list-style-type: none">全プロジェクトに伴走型支援を担当するURAを設置伴走型支援を実施したURA数：のべ23名

これまでに終了したプロジェクトの成果をまとめると…

